

# CASBEE® 京都-新築

## 評価ソフト(標準システム)

バージョン CASBEE京都-新築2018(v.1.0)  
 ■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版

### 1) 概要入力

#### ① 建物概要

■ 建物名称	京都産業大学 (仮称)新本館 新築工事		
■ 建設地・地域区分	京都府京都市北区上賀茂本山436他		6地域
■ 地域・地区	第一種中高層住居専用地域、防火地域指定なし(広域未区域)		
■ 竣工年(予定/竣工)	2022年5月		予定
■ 敷地面積	259105.03	m <sup>2</sup>	
■ 建築面積	1058.22	m <sup>2</sup>	
■ 延床面積	2,650.00	m <sup>2</sup>	
■ 建物用途名	大学 学校,		
■ 階数	地上4F		
■ 構造	RC造		
■ 平均居住人員	108	人(想定値)	
■ 年間使用時間	3,000	時間/年(想定値)	

#### ② 評価の実施

■ 評価の実施	2021年3月24日	実施設計段階
■ 作成者	喜田 育樹	
■ 確認日	2021年3月24日	
■ 確認者	喜田 育樹	
■ LCGO2の計算	標準計算	→LCGO2算定条件シート(標準計算)を入力

### 2) 個別用途入力

#### ① 用途別延床面積

事務所	0.00	m <sup>2</sup>	事務所		m <sup>2</sup>
			官公庁		m <sup>2</sup>
学校	2,650.00	m <sup>2</sup>	幼稚園・保育園		m <sup>2</sup>
			小・中学校		m <sup>2</sup>
			小・中学校(北海道以外)		m <sup>2</sup>
			高校		m <sup>2</sup>
			大学・専門学校	2650.00	m <sup>2</sup>
物販店	0.00	m <sup>2</sup>	デパート・スーパー		m <sup>2</sup>
			その他物販		m <sup>2</sup>
飲食店		m <sup>2</sup>			
集会所	0.00	m <sup>2</sup>	劇場・ホール		m <sup>2</sup>
			展示施設		m <sup>2</sup>
			スポーツ施設		m <sup>2</sup>
工場		m <sup>2</sup>	うち省エネ計画対象面積		m <sup>2</sup>
病院		m <sup>2</sup>			
ホテル		m <sup>2</sup>			
非住宅 小計	2,650.00	m <sup>2</sup>			
集合住宅	0.00	m <sup>2</sup>	専用部		m <sup>2</sup>
			共用部		m <sup>2</sup>

#### ② 住居・宿泊部分の比率

■ 病院の延床面積のうち、病室部分の床面積の比率	
■ ホテルの延床面積のうち、宿泊部分の床面積の比率	
■ 集合住宅の延床面積のうち、住戸部分の床面積の比率	0.00

# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都産業大学 (仮称)新本館 新築工事	階数	地上4F
建設地	京都府京都市北区上賀茂本山436他	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、防火地域指定なし(法22条区域)	平均居住人員	108 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年5月 予定	評価の実施日	2021年3月24日
敷地面積	259,105.03 m <sup>2</sup>	作成者	喜田 育樹
建築面積	1,058.22 m <sup>2</sup>	確認日	2021年3月24日
延床面積	2,650.00 m <sup>2</sup>	確認者	喜田 育樹



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 87%  
③上記+②以外の 83%  
④上記+ 83%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 3  
Q3 室外環境(敷地内): 3  
LR1 エネルギー: 3  
LR2 資源・マテリアル: 3  
LR3 敷地外環境: 3

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.2

LR のスコア = 3.5

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.4

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> キャンパスで最初の建物の建替え。大学の歴史、精神、建物の面影などを継承し、かつキャンパス内建物群と調和した外観とした。大学職員の事務室ならびに理事らの諸室が置かれる施設であるため、事務執務機能に対応できる室内とした。また屋根には太陽光パネル、駐車場にはEV車の充電スタンドを設置し、環境に配慮する計画とした。		その他
<b>Q1 室内環境</b> まず、室内騒音レベルおよび界壁・界床の遮音性能に配慮。次に、温熱環境に配慮して、断熱性を高めるとともに、室温制御、空調方式においてより快適な環境となる設計とした。また、空気質環境に配慮して化学汚染物質の出	<b>Q2 サービス性能</b> まず、心理性・快適性に配慮して、教室の天井高を2.5mを超える高さとし、設計段階では施設コンセプトを内装計画に反映するための具体的な取り組みを行っている。次に、維持管理に配慮した内外装仕上げとしており、清掃時に配	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 風致マスタープランの景観形成の趣旨に則り、隣接建物および周辺建物と調和した景観をつくる。
<b>LR1 エネルギー</b> 建物外皮の熱負荷抑制、設備システムの高効率化を行い、運用管理体制を整備している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 府内産木材を内装に積極的に採用するとともに、躯体材料におけるリサイクル材を採用し、部材の再利用可能性向上への取り組みを行っている。さらに、汚染物質含有材料の使用回避のため、有害物質を含まない材料を多用している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 騒音・風害・砂塵・日照障害の抑制に配慮した取り組みを行っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

<b>1 建物概要</b>		BEE	<b>1.4</b>	<b>B+</b>	★★★
建物名称	京都産業大学 (仮称)新本館 新築工事				
延床面積	2,650.00 m <sup>2</sup>				
用途	大学 学校	使用CASBEE評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 使用CASBEE評価ソフト CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)			

<b>2 重点項目への取組度</b>	
キーワード	取組度
1 大切に使う	
2 とともに住まう	
3 自然からつくる	

### 3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

<b>1 大切に使う</b>		合計点	29 / 41
<b>■長寿命化</b>		合計点	13.8 / 20
◇メンテナンスの容易性			
Q2/ 3.3.1 空調配管の更新性	スコア <b>3</b>	◇物理的長寿命	Q2/ 2.2.1 躯体材料の耐用年数
Q2/ 3.3.2 給排水管の更新性	スコア <b>3</b>		スコア <b>3</b>
Q2/ 3.3.3 電気配線の更新性	スコア <b>5</b>		特になし
Q2/ 3.3.4 通信配線の更新性	スコア <b>5</b>	◇社会的長寿命	
Q2/ 3.3.5 設備機器の更新性	スコア <b>3</b>	Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア <b>3</b>
(注 上記5項目のスコアの平均が合計点に算入される)		Q2/ 3.1.2 空間の形状・自由さ	スコア <b>4</b>
PF管、予備配管を設置		壁長さ比率:0.1≦0.26<0.3	
<b>■省資源</b>		合計点	14 / 20
LR2/ 2.1 材料使用量の削減	スコア <b>2</b>		
LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	スコア <b>3</b>		
LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	スコア <b>5</b>		
LR2/ 2.6 部材の再利用可能性向上への取組	スコア <b>4</b>		
再生アスファルト混合物、再生クワツヤラン、ビニル床材(フロアフォームソイルド)			
可動間仕切、移動間仕切		合計点	1 / 1
◆独自加点項目			
LR2/ 2.1 材料使用量の削減	主要構造部が木造躯体である場合で、「持続可能な森林から産出された木材」を使用しており、うち地域産木材を使用している。	対案外	○
LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	主要構造部に使用した「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	対案外	○
LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	対案外	○

<b>2 とともに住まう</b>		合計点	24 / 42
<b>■自然とともに住まう</b>		合計点	9 / 15
◇自然を感じられる計画			
Q2/ 1.2.1 広さ感・景観	スコア <b>4</b>	◇地域環境やコミュニティへの配慮	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア <b>3</b>	Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア <b>3</b>
Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア <b>2</b>	LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア <b>3</b>
外構緑化指数:42.64%、外来種を自ら導入しない		LR3/ 3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	スコア <b>3</b>
		記念ホールの計画、防犯性配慮(監視カメラ設置) 京都府内産木材の使用	
<b>■歴史とともに住まう</b>		合計点	6 / 10
◇歴史性への配慮			
Q2/ 1.2.3 内装計画	スコア <b>3</b>		
Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア <b>3</b>		
記念ホールの計画、防犯性配慮(監視カメラ設置)			
◆独自加点項目		合計点	0 / 2
Q2/ 1.2.1 広さ感・景観	京都重点項目による加点により、レベル5を超える。		
LR3/ 3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	格子状ルーバーや簾状スクリーンによりガラス面等の反射光を抑制している。または外壁に反射率の低い自然素材を採用している等の推奨内容の取組みを、1以上実施している。		

<b>3 自然からつくる</b>		合計点	31 / 50
<b>■自然材料の利用</b>		合計点	9 / 15
Q2/ 1.2.3 内装計画		スコア <b>3</b>	
Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上		スコア <b>3</b>	
LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材		スコア <b>3</b>	
記念ホールの計画、防犯性配慮(監視カメラ設置) 京都府内産材の使用			
<b>■自然環境の利用</b>		合計点	21 / 30
Q1/ 3.1.1 屋光率	スコア <b>5</b>	LR1/ 2 自然エネルギー利用	スコア <b>3</b>
Q1/ 3.1.3 屋光利用設備	スコア <b>3</b>	LR2/ 1.2.1 雨水利用システム	スコア <b>4</b>
Q1/ 3.2.1 屋光制御	スコア <b>3</b>		
Q1/ 4.2.2 自然換気性能	スコア <b>3</b>		
雨水利用設備あり			
◆独自加点項目		合計点	1 / 5
LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。		○
Q1/ 3.1.3 屋光利用設備	デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の屋光利用設備を採用している。		
Q1/ 3.2.1 屋光制御	デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の屋光利用設備を採用している。		
LR1/ 3 設備システムの高効率化	評価する取組みのうち、何れかの手法が採用されている。(但し、モニュメントの計画を除く) 上記の内容に加え、利用量が15MJ/m <sup>2</sup> ・年以上とされる場合。		○

<b>4 低炭素景観の創出に関する評価</b>			
<input type="checkbox"/> Q1/3.1.3 屋光利用設備	<input type="checkbox"/> Q1/3.2.1 屋光制御	<input type="checkbox"/> Q3/1 生物環境の保全と創出	低炭素景観 取組数 <b>6項目</b>
<input type="checkbox"/> Q3/3.2 敷地内温熱環境の向上	<input type="checkbox"/> LR3/2.2 温熱環境悪化の改善	<input type="checkbox"/> LR3/3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	

<b>5 ライフサイクルCO<sub>2</sub>とCO<sub>2</sub>削減率</b>			
ライフサイクルCO <sub>2</sub> (ライフサイクルCO <sub>2</sub> 参照値)	<b>58.46</b> kg-CO <sub>2</sub> /年m <sup>2</sup>	ライフサイクル	CO <sub>2</sub> 削減率 <b>+17.1%</b>
CO <sub>2</sub> 削減量	<b>70.50</b> kg-CO <sub>2</sub> /年m <sup>2</sup>		
	<b>-12.04</b> kg-CO <sub>2</sub> /年m <sup>2</sup>		

<b>6 ウッドマイルージCO<sub>2</sub>とCO<sub>2</sub>削減率</b>			
ウッドマイルージCO <sub>2</sub>		kg-CO <sub>2</sub>	ウッドマイルージ CO <sub>2</sub> 削減率 <b>0%</b>
CO <sub>2</sub> 削減効果		kg-CO <sub>2</sub>	

「ウッドマイルージ計算書」から転記:自由記述入力欄

高評価根拠資料一覧

※高評価項目が自動的に抽出されます。着色されている欄を記入の上、提出して下さい。

評価項目	評価点	環境配慮設計の概要記入欄	根拠資料	図面番号
Q1/1.2.1	5	全てのサッシにT-2以上を採用	特記仕様書	A-1
LR2/3.1	4	PRTR法対象物質を含有しない建材採用	MSDSシート	別添1

評価項目	評価点	環境配慮設計の概要記入欄	根拠資料	図面番号
Q1/2.1.2	4	窓 SC:0.352, U=3.27、外壁U=0.55	添付資料:モデル建物法計算結果	別紙資料
Q1/3.1.1	5	屋光率:9.7%	添付資料:計算書	別紙資料
Q1/3.3	4	事務室:600lx、役員室:600lx、廊下:500lx	1~4階天井伏図	A-20~23
Q1/4.1.1	5	F☆☆☆☆建材の採用+化学物質の濃度測定	電気設備設計概要書(1)	特E-01
Q2/1.2.1	4	CH=2,500以上+吹抜けの採用	意匠特記仕様書(1)	特A-03
Q2/1.3.1	4	②③⑤⑥⑨⑩	②③⑤⑥:1階~3階平面図 ⑨:機械設備方針書(1) ⑩:意匠特記仕様書(4)	A-06~08 特M-01 特A-06
Q2/2.2.5	5	主要な用途上位3種の、2種以上にB以上を使用しEは不使用	機械設備特記仕様書(4)	特M-06
Q2/2.4.2	4	節水機器、災害用マンホールの採用、井水の利用可能	給排水衛生設備 機器リスト・器具リスト 機械設備特記仕様書(2)(4)	M-15 特M-02、06
Q2/2.4.3	4	非常用発電設備、無停電設備、浸水の危険なし	電気設備特記仕様書(1)、中央監視設備図 仕様書 設計コンセプト(6)BCP計画	特E-04 E-14、共-14
Q2/2.4.4	5	耐震クラスS	機械設備特記仕様書(5)(振止め標準図)	特M-07
Q2/2.4.5	4	地上設置、災害時通信機器設置	分電盤リスト(3)	E-20
Q2/3.1.2	4	比率:0.1≤0.26<0.3	2階平面図 計算書	A-07 別紙資料
Q2/3.3.3	5	構造部材仕上材を痛めず更新・修繕(PF管、予備配管)	電気設備特記仕様書(2)	特E-05
Q2/3.3.4	5	構造部材仕上材を痛めず更新・修繕(PF管、予備配管)	電気設備特記仕様書(2)	特E-05
Q3/2	4	風致地区にあり許可を得ている	京都市風致地区条例第2条第1項前段の規定に基づく現状変更行為の許可通知書	別紙資料
LR1/1	5	BPI <sub>m</sub> = 0.56	モデル建物法複数用途集計ツール(平成28年省エネ基準用)による計算結果	別紙資料
LR2/1.1	4	節水型器具の採用	機械設備設計方針書(2) 給排水衛生設備 機器リスト・器具リスト 節水資料	特M-02 M-15 別紙資料
LR2/1.2.1	4	雨水利用している	機材一覧、外構詳細図、意匠特記仕様書(6)、カタログ	特A-08 A-03、A-51 別紙資料
LR2/2.4	5	再生アスファルト混合物、ビニル床材(フロアリュームソイルド)パーティクルボード	機材一覧、1階平面図A-06、2階平面図A-07	A-03、A-06 A-07
LR2/2.6	4	再利用できるユニット部材(OA707)可動間仕切、移動間仕切	機材一覧、1階平面図A-06、2階平面図A-07	A-03、A-06 A-07







**CASBEE-京都-建築(新築)2018年版**  
**京都産業大学 (仮称)新本館 新築工事**

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年  
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点		重み係数
<b>Q 建築物の環境品質</b>									
<b>Q1 室内環境</b>									
<b>1 音環境</b>									
1.1 室内騒音レベル					1.6	0.15		-	1.6
1.2 遮音					1.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能					3.0	0.40		-	
2 界壁遮音性能					1.0	0.30		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					1.0	0.20		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					1.0	0.20		-	
1.3 吸音					3.0	0.20		-	
<b>2 温熱環境</b>									
2.1 室温制御					2.2	0.35		-	2.2
1 室温					3.4	0.50		-	
2 外皮性能				窓 SC:0.352, U=3.27、外壁U=0.55	3.0	0.60		-	
3 ゾーン別制御性					4.0	0.40		-	
2.2 湿度制御					1.0	0.20		-	
2.3 空調方式					1.0	0.30		-	
<b>3 光・視環境</b>									
3.1 昼光利用					3.5	0.25		-	3.5
1 昼光率	●自然	A(全国版準用)	昼光率:9.7%		4.2	0.30		-	
2 方位別開口					5.0	0.60		-	
3 昼光利用設備	●自然	B(推奨内容)			3.0	0.40		-	
3.2 グレア対策					3.0	0.30		-	
1 昼光制御	●自然	B(推奨内容)	ブラインド+庇		3.0	1.00		-	
3.3 照度			事務室:600lx、役員室:600lx、廊下:500lx		4.0	0.15		-	
3.4 照明制御					3.0	0.25		-	
<b>4 空気質環境</b>									
4.1 発生源対策					3.8	0.25		-	3.8
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆建材の採用+化学物質の濃度測定		5.0	0.50		-	
4.2 換気					2.3	1.00		-	
1 換気量					3.0	0.30		-	
2 自然換気性能	●自然	A(全国版準用)			3.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮					1.0	0.33		-	
4.3 運用管理					3.0	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視					3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御					3.0	0.50		-	
<b>Q2 サービス性能</b>									
<b>1 機能性</b>									
1.1 機能性・使いやすさ					3.3	0.40		-	3.3
1 広さ・収納性					3.0	0.40		-	
2 高度情報通信設備対応					5.0	-		-	
3 パリアフリー計画	●大切	D(独自基準)			3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性					3.5	0.30		-	
1 広さ感・景観(天井高)	●とも	C(独自加点)	CH=2,500以上+吹抜けの採用		4.0	0.50		-	
2 リフレッシュスペース					3.0	-		-	
3 内装計画	●自然	D(独自基準)			3.0	0.50		-	
1.3 維持管理					3.5	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計			②③⑤⑥⑨⑩		4.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>									
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.3	0.30		-	3.3
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			25%増の耐震性を有する		3.0	0.50		-	
2 免震・制震・制振性能					3.0	0.80		-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.0	0.20		-	
1 躯体材料の耐用年数	●大切	A(全国版準用)			3.4	0.30		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			タイル貼り(40年)		3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.20		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.10		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			主要な用途上位3種の、2種以上にB以上を使用しEは不使用		5.0	0.20		-	
					3.0	0.20		-	



2.4 信頼性					4.0	0.20			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				4.0	0.20			
3	電気設備				4.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				5.0	0.20			
5	通信・情報設備				4.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.2	0.30			3.2
3.1 空間のゆとり					3.4	0.30			
1	階高のゆとり				3.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	比率:0.1≤0.26<0.3	4.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30			
3.3 設備の更新性					3.4	0.40			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	構造部材仕上材を痛めず更新・修繕(PF管、予備配管)	5.0	0.10			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	構造部材仕上材を痛めず更新・修繕(PF管、予備配管)	5.0	0.10			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30			3.2
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		3.0	0.30			3.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	風致地区にあり許可を得ている	4.0	0.40			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30			2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-			3.5
LR1 エネルギー					-	0.40			3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI <sub>m</sub> = 0.56	5.0	0.20			5.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.10			3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.74	3.6	0.50			3.6
4 効率的運用					2.5	0.20			2.5
集合住宅以外の評価					2.5	1.00			
4.1	モニタリング				3.0	0.50			
4.2	運用管理体制				2.0	0.50			
集合住宅の評価					-	-			
4.1	モニタリング				-	-			
4.2	運用管理体制				-	-			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			3.5
1 水資源保護					3.8	0.20			3.8
1.1 節水				節水型器具の採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.7	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)	雨水利用している	4.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減					3.5	0.60			3.5
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10			
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	再生アスファルト混合物、ビニル床材(フロア用ソイルド) パーティクルボード	5.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	再利用できるユニット部材(OA707)	4.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.3	0.20			3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.5	0.70			
1	消火剤				-	-			
2	発泡剤(断熱材等)			吹付ウレタンフォームA種1H(ノンフロン)、グラスウール	4.0	0.50			
3	冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境					-	0.30			3.4
1 地球温暖化への配慮				省エネ設備の導入	3.6	0.33			3.6
2 地域環境への配慮					3.3	0.33			3.3
2.1 大気汚染防止				燃焼設備機器の導入なし	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.5	0.25			
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3	交通負荷抑制				3.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音				3.0	0.50			
2	振動				3.0	0.50			
3	悪臭				-	-			
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制				3.0	-			
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					4.4	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策がドラインの抜い過半を満たす、広告物照明なし	5.0	0.70			
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる